



## ピリピ人への手紙 1, 4章

ピリピ 1:9-11 / 4:18-20

2016. 3. 10

- ・ 愛が豊かになり、知識と識別力によつて
- ・ 義の実に満たされる。キリストの日に。
- ・ 神の栄えと誉れが現わされる。
- ・ 贈り物で満たされる。満ち足りている。
- ・ キリストの栄光の富で満ちる。
- ・ 父を子神に栄えがとこしえに。

ローマ8:28-39 私たちは知っています。死を 殉者と同じで。

35 愛から引き離すのは、患難、苦しみ、迫害、飢え、裸...

ローマ5:1- 神の栄光を望んで喜んでいる。患難さえも喜んでいる...

ピリピ人への手紙の中に祈りが、最初の1章9節から11節、それと、最後のアーメンのところにあります。4章20節に「どうか」というのがあるのですけれども、そこは18節からと考えて、4章18節からと見ることができるのではないかと思います。喜びでずっと統一され、強調されているピリピ人への手紙です。

豊かになる、満たされる、満ち溢れる、満ち足りている、栄光の富で満たされる。栄光、栄光、栄光というのが、出だしと最後の祈りのところにあります。喜びで満たされる祈りと、感謝をもって祈ることが秘訣なんだよね。その喜びで満たされるということが始まって、あなたがたが満たされますように。パウロは満ち足りています。与えられて喜んでいきます。栄光の富であなたがたが満たされるようにということを祈っていますね。これの最初のところ、あなた方の愛が真の知識とあらゆる識別力によって、豊かになって優れたものを見分けることができるようになりますようにと言っている知識と識別力というのは、キリストを知ること、キリストの愛を知っていること、キリストに信頼していることという、知識と識別力です。それはローマ8章で「神を愛する人々、すなわち神のご計画に従って召された人々のためには、神が全ての事を働かせて益としてくださいることを私たちは知っています」キリストの愛を知っています。なぜならば、神は御子と御子の形と同じ姿に定めていた。御子の姿と同じ姿に定められていたということなので、「キリストの愛から引き離すのは誰ですか」というところに、患難、苦しみ、迫害、飢え、裸、ピリピに出てきたような苦しみですね。牢に入れられても絶対に愛か

ら離れないで、感謝と賛美で戦っている。絶対に勝利者となる。圧倒的な勝利者となるということが言われてることです。ローマの8章のところは、5章から続く段落です。5章の最初に同じように神様の望み、神様の愛が私たちに注がれているということで、その段落が始まるのですけれども、その中でも神の栄光を私たちの立っているこの恵みに、信仰によって導き入れられた私たちは神の栄光を望んで大いに喜んでます。患難さえも喜んでいます。」というところから、この愛の段落が始まります。患難さえも喜んでいます。患難は神の愛に終わる。絶対に失望に終わらない。神の愛が私たちに注がれているという確信が深まります。その愛を悟ることになります。愛のうちを歩むことになります。患難さえも喜んでるピリピの教会のような感じですので、その模範に従って歩むことを励まされています。